

# まちの話題

話題のニュースやイベントなどを紹介！



▲ひらしん美術ギャラリーに飾られた自身の水彩画「入道雲」の前で「あか抜けていてふらっと来たくなる建物。開館を楽しみにしていました」と星丘在住の植松和代さん（75歳）。



## 総合文化芸術センターで初の市民総合文化祭

9月11日～23日、市民総合文化祭が8月30日に開館したばかりの市総合文化芸術センターで開催されました。市民が文化芸術を表現できる場として舞台部門1204人、展示部門169人、短歌・俳句部門134人の計1507人が合唱や演劇、落語などを披露。コロナ対策で客席は半分に制限されていたものの、関西医大大ホール、小ホールの各舞台では出演者に向けた大きな拍手で会場が包まれました。以前の市民会館大ホールでも公演を楽しんでいた60代男性は「マイクがなくても声がとても良く響いて驚いた。市民にも頑張っている人がたくさんいるんだ」と笑顔でした。

歌声の響きにびっくり！  
1507人が演奏や絵画など披露



▲北川茉莉子さん（ソプラノ・右）と蛭川千佳さん（ピアノ・左）のアンサンブルコンサート。オペラ「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」などを歌い上げました。

## 枚方のお宝 間近で見て感激

HIRATAKARA展に市所蔵文化財50点



9月29日～10月4日、市所蔵の埋蔵・民俗文化財50点などを展示したHIRATAKARA展が総合文化芸術センターひらしん美術ギャラリーで開催されました。江戸時代の枚方で使われていたくわらか茶碗やわらじ、百済寺跡で出土した瓦などがずらり。出土品の中には初公開の金銅製飾金具も。友人と訪れた大西美佳さん（52歳・写真左）は瓦を前に「お宝を間近で見られて感激。歴史を知ると枚方がもっと好きになりますね」と目を輝かせていました。

## 応援胸に世界へ挑み続ける

パラ走幅跳6位中西選手に市民スポーツ賞



市は9月8日、東京2020パラリンピック女子走幅跳（T64）で、6位に入賞した中西麻耶選手（36歳）に市民スポーツ賞を授与しました。大会前には市立陸上競技場を拠点の一つとし、市出身で男子走幅跳元日本代表の荒川大輔コーチと練習を重ね本番へ。「試合を見たよ」と市民から声を掛けられることも増え、たくさんの応援メッセージを受けとった中西選手は「今後も世界記録に挑みたい」と意気込みました。

一緒に

# 「この街」を盛り上げませんか

社歌コンテストの投票にご協力を！



（「この街が好き」メイン版プロモーションビデオより）

第3回NIKKEI全国社歌コンテストに、市テーマソング「この街が好き」メイン版プロモーションビデオで出場しています。企業や団体の歌で競うもので、審査員による審査のほか一般投票も行われ、入賞すると日経新聞で紹介されるなど枚方を全国にPRできるチャンス。1日1回投票できます。皆さんの投票で一緒に枚方を盛り上げませんか？

投票期間

11月5日(金)～19日(金)

社歌コンテストの詳細はこちら▶



## ポスターで振り返る41年

市民ギャラリー最後の企画展に約360人



市総合文化芸術センターひらしん美術ギャラリー開館に伴い9月末に閉館したサンプラザ3号館市民ギャラリーで9月24日～29日、41年間の歴史を振り返るポスター展が開催されました。昭和55年の開館から市が企画した約200の展覧会のうち現存するポスター89点が展示されました。昭和57年に約1万8000人を集めた「原爆の凶」展のポスターも。市外から来た50代女性は「美術が好きで何度も訪れましたね」と懐かしんでいました。



▲姉と一緒によく行った天野川の河川敷。草むらを散策してはコオロギを捕まえて遊びました（昭和61年）。

▶村野神社は当時住んでいた家の近所にありました。小学2年生の頃、お祭りで友だちと一緒にみこしを担ぎました（昭和62年）。



◀市民会館の前で空手の集団演武（昭和62年）。

### 村野神社で修行 心身共に鍛えられ

上京してからもいろんな神社を参拝するたびに、がむしゃらなうさぎ飛びを思い出して初心に戻ります。今ではなくてはならない大切な思い出です。

小学1年生の頃から空手を習い始めました。ある日、師範に準備運動しに村野神社へ行くぞと言われ、入り口へ続く石階段へ。何が始まるのかと思いきやなんと、うさぎ跳びで上がるのだという。必死に上がりきったと思えばすぐに折り返して下ることに。10往復ほどした時には涙も枯れていました。そんな修行のような習い事を続けること数年、おそらく母親の思惑通り心も体も丈夫に育ちました。

## 枚方 思い出の1コマ 家族

ひらかたかぞく

枚方ゆかりの著名人の皆さんが秘蔵の写真とともに思い出を語ります。

### 第44回 やまぐちたかし 山口高始さん



シンガーソングライター。高校時代から作詞作曲をはじめ、路上やライブハウスで活動スタート。平成25年から「かりゆし58」のサウンドプロデューサーを担当。平成30年「和田アキ子with BOYS AND MEN 研究生」に提供した楽曲「愛を頑張っ」が、ゴールドディスク認定、レコード大賞企画賞を受賞。その他、多数のCM楽曲制作、ライブサポートで活躍中。

## 編集後記



青い海と白い砂浜。今月は市内では見られない南国の絶景が表紙を飾りました。いつもと一味違う広報紙にびっくりし

ませんでしたか？名護市の記事がとっても楽しそうで、気付けば「沖縄、行きたいなあ」とつぶやいていました。